サントリー学芸賞贈呈式に出席する中西嘉宏さんや川瀬慈さんら受賞者（東京都内）

京都大の中西嘉宏准教授がミャンマーの難民問題の歴史と現実を考察した「ロヒンギャ危機―『民族浄化』の真相」（中公新書）と、アフリカで音楽を職能とする人々の生きざまを記録した国立民族学博物館の川瀬慈准教授の「エチオピア高原の吟遊詩人　うたに生きる者たち」（音楽之友社）が「第43回サントリー学芸賞」を受賞した。著作はともに「ドキュメンタリー映像を見ているかのよう」「そこに生きる人々が活写されている」と各方面から評価されている。大学院時代、「アウトローの『けったいな』研究も寛大にサポートしてくれる雰囲気があった」という京都大アジア・アフリカ地域研究研究科で同期として学んだ気鋭の２人。さらなる学究フィールドの深化や研究成果の発表に意欲をのぞかせる。（佐久間卓也）

サントリー学芸賞に京大ゆかり２氏の著作

善悪の構図超え客観的分析

「ロヒンギャ危機」

京都大・中西嘉宏准教授

２０１７年８月、ミャンマー北部のラカイン州で武装勢力が警察を襲撃したのをきっかけに、国軍がイスラム系少数民族ロヒンギャの掃討作戦を行い、わずか４カ月の間に隣国のバングラデシュに約70万人もの難民が流出した。国際的な人権問題として批判される一方で、民主化運動や政変に揺れる国で何が起こったのか、その実態は見えにくい。長年、ミャンマーの政治経済や文化を研究してきた中西さんは著書でさまざまな報告書の分析や現地での聞き取り調査を基に、危機の実相を浮かび上がらせた。

ロヒンギャは軍事政権下で、国籍が取得できないなど長く差別されてきた。仏教徒が９割のミャンマーでは宗教上の少数派で、そのアイデンティティーは不透明な部分も多い。「ミャンマー人からはバングラディシュからの不法移民とみなされ、ほかのイスラム系民族からも縁遠い。研究者の間にも共通の理解や付随する情報がなく、研究すると入国が難しくなるような若干のタブー感があった」。中西さんは、王朝時代や１９４８年に英国の植民地から独立するまでのミャンマーの歴史もひもときながら、ロヒンギャの動態を分析。その上で、国家による排除と管理の強化が進む一方、民政移管が人々の自由をもたらし、宗教対立の激化など新たな紛争を生み出していったミャンマーの社会構造を読み解いた。

圧巻は、ロヒンギャ武装勢力の襲撃事件や軍の掃討作戦でいったい何が起こったのかを探る第４章だ。人道的な立場に立脚しながらも、国連側や政府側など対立するさまざまな報告書を比較検証し、軍人や政治家、ＮＧＯ関係者らにも聞き取り調査して事件の真相に迫る。客観的で透徹した視点は「ドキュメンタリー映像を見ているかのような筆致」とも評される。「軍であろうが、民主化勢力であろうが、その立場になった時に世界がどう見えるか。現場でどういう緊張関係があったのか、紛争研究として自分が調べてきたことと合わせて可能なかぎり再現しようと試みた」

国際社会の反応も再検証し、国家顧問兼外相だったアウンサンスーチー氏や政府が国連の国際司法裁判所などで国軍の残虐行為について国際法上の「虐殺」を否定したことは、したたかなリベラリズムや国内政治勢力のバランス感覚の上で見せた受け身のリーダーシップと分析。「ロヒンギャの問題はナショナリズムの国家根本の部分で簡単に包摂できない。民意や世論も複雑で、どういう板挟み状態にあったのか。正義と不正義という単純な構図でなく客観的に見ていかなければ危機の本質は理解できない」と説く。

「ロヒンギャ危機は単純な善悪の構図だけでは理解できない。難民問題はアフガニスタンなど世界に広がっている。日本や各国の人道支援は喫緊の課題だ」と語る中西さん（京都市左京区・京都大アジア・アフリカ地域研究研究科）

「民意も複雑」対立意見など比較検証

２０２１年１月に刊行され、その後すぐクーデターが起こったが、中西さんの研究成果は、ミャンマーの現状や今後を理解するのに大きな示唆を与えてくれる。「ロヒンギャ問題とミャンマー情勢、それぞれについてなるべくバランスのとれた見方を社会に提供できれば。１９８８年の民主化運動からスーチー政権の誕生やこの政変までのミャンマーの変容を本にまとめたい。スーチー中心ではない新たな民主化運動が出てこないかぎり軍の支配は続く。未来を見通すためにもこの30～40年を総括する必要がある」と語る。

大学院で同期として学んだ川瀬さんについては「映像人類学は、大学院時代から面白い試みだなとうらやましく眺めていた。学問の権威や方法の多様化のスピードはすさまじく、自分でも古くさいことをしているだけではないのかと不安になることもある。川瀬さんの仕事を見ると、とても自由で、自分も不安を感じている暇があるなら何か挑戦した方がいいなと思わせられる。これからも堅苦しい枠に縛られない仕事を続けてほしい」とエールを送る。

なかにし・よしひろ　１９７７年兵庫県生まれ。東北大卒。京都大アジア・アフリカ地域研究研究科博士課程修了。京都大東南アジア地域研究研究所准教授。専門は地域研究、比較政治学、ミャンマー政治研究。著書に「軍政ビルマの権力構造」など。

京都新聞社
The Kyoto Shimbun Co.,Ltd.

©京都新聞社　無断複製・転載を禁じます